

シリーズ 第76回 人権



娘とおばあちゃん

中学生の娘から、学校の奉仕活動で老人ホームを訪れ、入所者とゲームをしたときの話を聞いた。娘が提案したのは「アタマ カタ ヒザ ポン」という手遊び。コミュニケーションを図るため、生徒と入所者が二人一組になり、歌いながらお互いの頭と肩と膝をタッチする。しかし、数人の生徒が高齢者と触れ合うことを嫌がったため、このゲームは変更になってしまったと、娘は納得できない様子で語っていた。

思い起こせば、娘は幼少の頃から曾祖母の家に行っていた。おばあちゃんは、昭和2年生まれ。おじいちゃんが鬼籍に入ってから10年、独り暮らしをしている。

私は娘とおばあちゃんの家を訪問した。娘はあいさつを交わした後、畳の部屋の一番奥へ行った。すると、私の耳に「チン、チン、チン」と、リンの優しい音色が飛び込んできた。遅ればせながら、私も後を追った。そこには、ご先祖様の前できちんと正座した娘がいた。知らない間に、娘は成長していたのだ。

おばあちゃんが、仏壇から下げてきたリングを年季の入った包丁とまな板でおいてくれた。小さなウサギが波だった手から娘の滑らかな手へ跳んでいったのを見て、私は思った。核家族化が進み、高齢者が作ってくれた食事など食べたことがない子どもは多い。一方、娘は小さいころからおばあちゃんの手料理を食べている。この経験が二人の壁をなくしているのだと。

屋敷の南側にある畑には、おばあちゃんが丹精込めて作った野菜が実っている。長時間の作

業はできないため、涼しい時間を見計らってぼちぼち草引きや水やりをしている。よく猿や鹿が畑を荒らすので自作の網を畑に張り巡らせ、かかして追い払う。娘はおばあちゃんときゅうりを収穫し、かぶりついている。

おばあちゃんは、口癖のように「年を取り周囲に迷惑を掛けるだけの存在になりたくない」と日常を生き抜いている。高齢者虐待や障がい者殺傷事件など耳を覆いたくなるようなニュースがあふれる時代に、ありふれた日常を守ることがどんなに大変なことか。今、人との触れ合い、吹き抜ける若葉風、気持ちよく晴れた空といった小さな喜びが見過ごされがちな世の中になっている。だが、おばあちゃんと娘を見ていたら、高齢者差別などこの世に存在しないのではないかと感じる。

私はおばあちゃんに言いたい。「迷惑じゃない。ありがとう」と。

(40代・男性)

人権 豆知識

知ってますか？ 人権に関わる法律

平成28年度に「障害者差別解消法（平成28年4月1日施行）」「ヘイトスピーチ解消法（平成28年6月3日施行）」「部落差別解消推進法（平成28年12月16日施行）」といった人権に関わる法律が相次いで施行されました。

私たちは、こうした法律の理解をはじめ、差別のない社会の実現を目指していかなければなりません。